

シリーズ 三郷学

〈三郷学の視点③〉

三郷学の視点

16. こだわり

三郷のまちが持続可能な発展を続けるためには、三郷が他のまちと比べて魅力的なまちであり続けることが求められます。そのためには、三郷の優位性や独自性を発見し、あるいは創出し、それらの付加価値を高めていく必要があります。

付加価値を高めるためには、三郷のまちに対するさまざまな「こだわり」が大切になります。たとえば、市内では、小松菜が多くの農家で栽培され、特産品となっていますが、土壌診断を行ったり、堆肥づくりを工夫したり、季節により小松菜の品種を変える農家もあります。このような農家のみなさんの「こだわり」により栽培さ

れた野菜は、市内の直売所をはじめ、スーパーの地元産野菜コーナー等で販売されています。それらは安全・安心な野菜を食卓にと考える多くの市民に親しまれ、学校給食の食材としても使用されています。また、食育支援事業として農業後継者の団体のかたがたが小学校を訪問し、小松菜を配布するとともにそのおいしさについて子どもたちに伝えています。

市では、農産物即売所の設置費を補助するとともに、かいちゃん・つぶちゃん入りの結束テープや野菜用袋を農家のみなさんに提供し、三郷産農産物のPRを行っています。



この例のようにそれぞれの「こだわり」が付加価値を生み出すことにより、それらは三郷の強さとなって、まちが「きらりとひかる魅力的なまち」であり続けることにつながっていきます。